



その時、宇宙飛行士たちは何を見、何を感じたのか。

アポロ計画の神髄を描いた唯一のドキュメンタリー映画

宇宙へのフロンティア

FOR ALL MANKIND

アポロ月面着陸20周年記念特別企画 U.S.フィルムフェスティバル1989年ドキュメンタリー部門グランプリ受賞作品



FOR ALL MANKIND

●推薦のことば

「母なる星の切ないほどの美しさに驚き、絶句し、泣いた。」 新井 満(作家)

月まで行き、月に着陸し、月から帰還することによって人類は、初めて宇宙人になった。月旅行の間中、飛行士たちは何を見ていたか。地球を見ていた。そして、自分たちが目ざす真の目的地が、月ではなく地球であることに思い至った。“母を尋ねて三千里”という物語があるではないか。マルコ少年とは飛行士たちのことであり、私たち人類のことでもあったのだ。旅路の果てにやっとめぐりあえた母なる星は、心細いほど小さく、切なくなるほど美しかった。

諸君…。この映画を見ることは、諸君が、まだ見ぬ諸君の母と出会うことなのである。

●作品概要

1968年12月から1972年11月まで4年間・9回の有人飛行で、24人の男たちが宇宙への旅に出ました。彼らは、惑星(地球)を離れて別世界へ向かった最初の人類でした。この映画は宇宙を初体験した彼らが持ち帰った、人類へのメッセージです。その肉声は感動なくして聞くことはできません。それは人類の歴史のなかに深く刻まれ、すべての人を抱擁するでしょう。

『宇宙へのフロンティア』は、アポロ宇宙飛行士の月への実体験を35ミリ劇場映画で再現。その使用フィルムはNASA・9回の月面探索で撮影された何百万フィートの中から厳選されたものです。

『宇宙へのフロンティア』は、飛行士たちの月へのアプローチをまるで目の前で起こっているかのように展開していきます。この映画は観客であるあなたが、あたかも宇宙飛行士とともににあるかのように、月面をあなたの目で見、あなたの手で触れるのです。人類が長い長い間夢に見た月への飛行を、あなたとともに果たす画期的なドキュメントです。

『宇宙へのフロンティア』から学ぶもの、それはスケールの大きな思想です。暗黒の宇宙に浮かぶ青い地球の美しさ、その発見です。この「かけがえのない宇宙船・地球号」こそ、私たちの最大の資産であり、最愛の母体なのだという再認識なのです。

『宇宙へのフロンティア』のナレーションは、監督アル・ライナーが行った80時間におよぶ宇宙飛行士へのインタビューから構成されています。しかしいま、宇宙飛行士として残っているのは、24人のなかでたった1人に過ぎません。

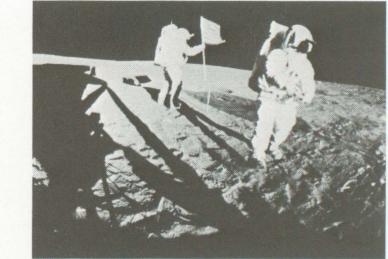
●製作スタッフ

アル・ライナー(製作・監督)

1972年以来『テキサス・マンスリー』誌の客員編集者として活躍してきました。同誌10周年記念号での記事「MOONSTRUCK」は、人類の月面着陸を記念するのですが、この記事は世界43カ国で訳され、『宇宙へのフロンティア』誕生のきっかけになりました。

フレッド・ミラー(製作総指揮)

1970年から80年にかけて多くのドキュメンタリー映画の監督・脚本を手がけ、30以上の国際的な賞を受けています。1980年以来、監督・脚本業のかたわら「アーバン・カウボーイ」「スーパーマンII」等の映画製作の資金調達や配給の仕事をも手がけています。



9月9日土曜日 独占ロードショー！

特別鑑賞券1,300円 (当日一般1,600円・学生1,300円)

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さい。

連日 12:00 1:45 3:30 5:15 7:00

土曜のみ夜8:45

銀座テアトル西友

銀座線京橋駅下車 03(535)6000